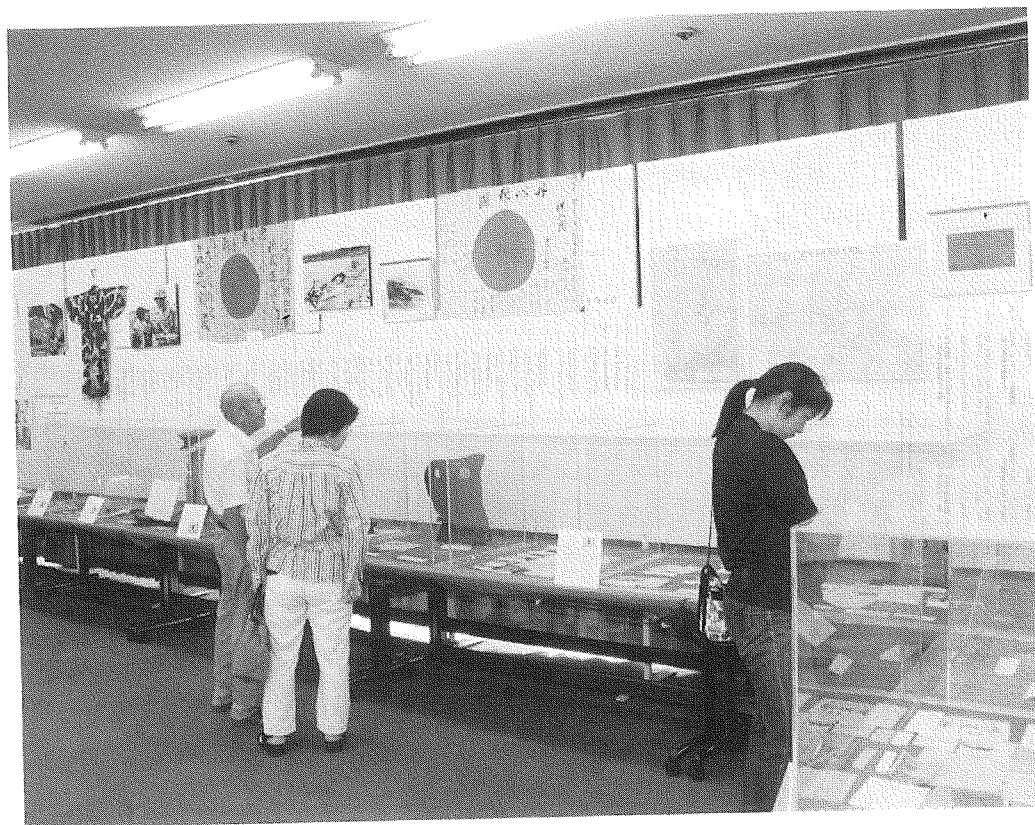


## 第3部

### 戦争に関する資料展示

「戦争を知らない子どもたちへ from あびこ」



## 戦争資料展示会「戦争を知らない子どもたちへ from あびこ」概要

私たち運営スタッフは、第二次世界大戦の終戦から60年が経過し、人々の戦争の記憶が薄れて行く中で「多くの人たちに戦争の悲惨さや空しさ、悲しさを伝えたい。また、今もなお続く戦争を心からなくそうと感じ、どうしたらよいだろうと考える機会をつくりたい」と考えました。特に、次代を担う子どもたちにこそ来場いただきたいの思いから、テーマを「戦争を知らない子どもたちへ from あびこ」として、夏休み期間中の1ヶ月間に次のとおり開催し、2,000人以上の方々にご来場いただきました。

場 所：市民会館 第2、第3会議室

期 間：平成17年7月31日～8月28日

資料数：約180点

展示内容は、1930年から1950年ごろまでの過去の日本が関わった戦争のコーナーと現代の戦争・紛争のコーナーに分けました。

過去の戦争のコーナーは、日本の戦争史・我孫子の地域史を組み込んだ带状に長い年表を作成し、会場を囲むように掲示しました。市民や団体の皆さんから提供していただいた資料は、できるかぎりこの年表の年代に合わせて展示しました。

資料には、遺書、従軍手帳、軍事郵便、家族・知人が武運長久を祈って書いた日の丸の寄せ書き、捕虜となった人の携行品明細表、各種の勲章、短剣、予科練の制服、長崎の原爆で焼けた瓦、利根川の河川敷に落ちた焼夷弾の弾筒、召集令状、出征祝いのぼり、木銃、防空頭巾、家族や友人の写真などがありました。

遺書には、「一家の繁栄は富にあらず、だんらんこそその鍵」とあり、検閲をくぐり最後の通信物となったカミソリの刃の包装紙には、「私物が家に届きますが、決して心配なさらぬ様御承知下さい」とありました。死を覚悟した人たちから残される人たちに、やさしく語る言葉の数々がありました。

また、時代をわかりやすく紹介するために、運営スタッフの一人で戦中を少年期として過ごされた小池氏の回想録を展示しました。回想録では、爆撃で家が焼失した級友の姿を見たり、機銃掃射を受け即死した少年の話を聞いたり、疎開生活や遺体収容作業を行ったりしたことなど、具体的な話がありました。「あの日から、60年も経ってしまいました。失ったものは多かったと思います。でも今の日本は平和です。それだけが、心の支えです」との言葉は、戦中と戦後60年間を生きてこられた方々の気持ちを代弁してくれたものだと思います。

現代の戦争・紛争のコーナーでは、日本ユニセフ協会から提供された紛争国での子どもたちの写真と地雷のレプリカ、森住卓氏撮影の湾岸・イラク戦争での子供たちの写真を展示しました。どの子供たちも、悲しみの中で今を精一杯生きている顔をしていました。

この他、我孫子市民図書館が所蔵している戦争に関する図書や市民から提供いただいた図書を展示し、ご来場の方々に自由に閲覧して頂きました。

この展示会のために、貴重な資料を提供してくださいました市民・団体の皆様、展示会場に足を運んでくださいました皆様に感謝申し上げます。

## 戦争に関する資料展示

# 「戦争を知らない子どもたちへ from あびこ」

戦争を知る世代から戦争を知らない世代に、あの日の事実を伝えることで、たくさんの人に平和について考えていただきたいと思います。戦争下の子どもたちの写真をはじめ、戦争の記録や資料等の展示を行います。戦争当時の貴重な資料や品々は、歴史の証言者として多くのことを語りかけてくれることでしょう。

### 第二次世界大戦当時の展示

年表：1930年（昭和5年）～1950年（昭和25年）の戦争・社会での出来事と我孫子市および近辺での出来事

写真：年表と同じような時期に撮影された写真

戦争中の資料や品々

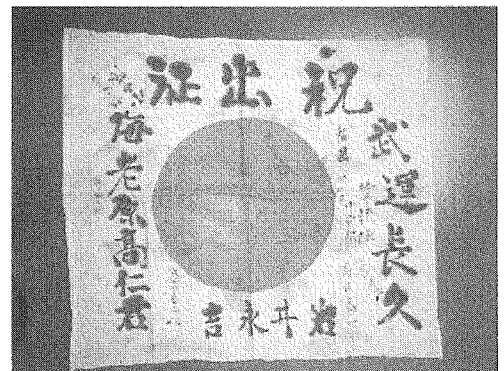
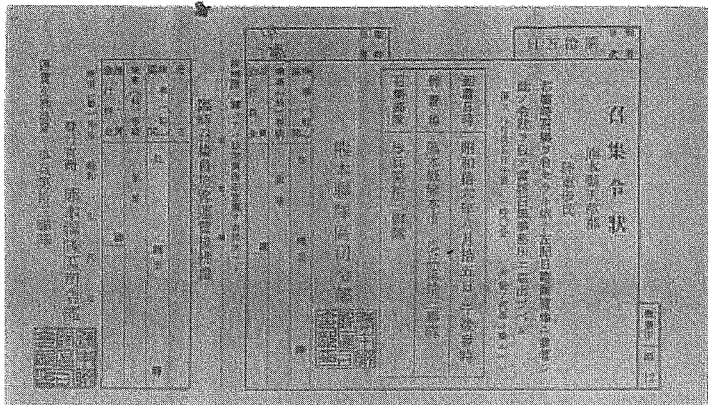
召集令状、出征を祝う日の丸への寄せ書き・のぼり旗、焼夷弾の弾筒、軍刀、木銃、遺言状、奉公袋、千人針、手紙、防空頭巾、灯火管制用の電球など

現代の戦争・紛争に関する展示

1950年（昭和25年）以降の世界の紛争マップ、略年表、紛争地域での写真

### これが赤紙です

- ある日突然、赤紙（召集令状）がきたら、必ず戦場に行かねばなりません。
- 徴兵制度とは、全ての青年が20歳になったら必ず軍隊に入らなければならない制度です。



血染めとなった出征祝いの寄せ書き



出征を記念して撮った写真：昭和17年

日時：平成17年7月31日（日）  
～8月28日（日）

場所：市民会館 第2、第3会議室

時間：午前9時～午後5時  
（市民会館の休館日を除く毎日）

入場料：無 料

問合せ：我孫子市役所 企画調整担当  
04-7185-1426

展示会場に掲示した市長のメッセージ

## メッセージ

終戦から60年を迎えます。今や日本の人口の4分の3が戦後生まれとなり、戦争の記憶が薄れつつあります。一方、大戦後も世界各地では紛争の絶えることがありません。

2001年のアメリカでの同時多発テロからイラク戦争への流れは、「21世紀こそ平和な世界を」という期待を完全に裏切るものでした。イラクではいまだに米軍と武装勢力の間での交戦や自爆テロが続き、多くの民間人が犠牲になっています。さらに、昨年のマドリードでのテロに続き、7月にはロンドンで地下鉄・バスを標的にした同時爆破テロが起きました。憎しみと報復の連鎖が新たな暴力と犠牲者を生み出しています。

「戦争を知らない子どもたちへ from あびこ」は、太平洋戦争前後の1930年から1950年ごろまでと、現代の紛争に大きく分けて戦争に関する資料展示を行っています。

太平洋戦争前後のコーナーは、市民の皆さんから提供していただいた家族や友人の写真、兵隊に行った父親の家族への手紙、遺品、戦時中に使っていた日用品等を中心に展示しています。当然のことながら、我孫子市民にも大きな影響を与えた戦争だったのです。

また、現代の紛争のコーナーでは、紛争地を地図で示し、紛争国での子どもたちの姿を中心とした写真や日本ユニセフから提供いただいた地雷のレプリカをご覧ください。

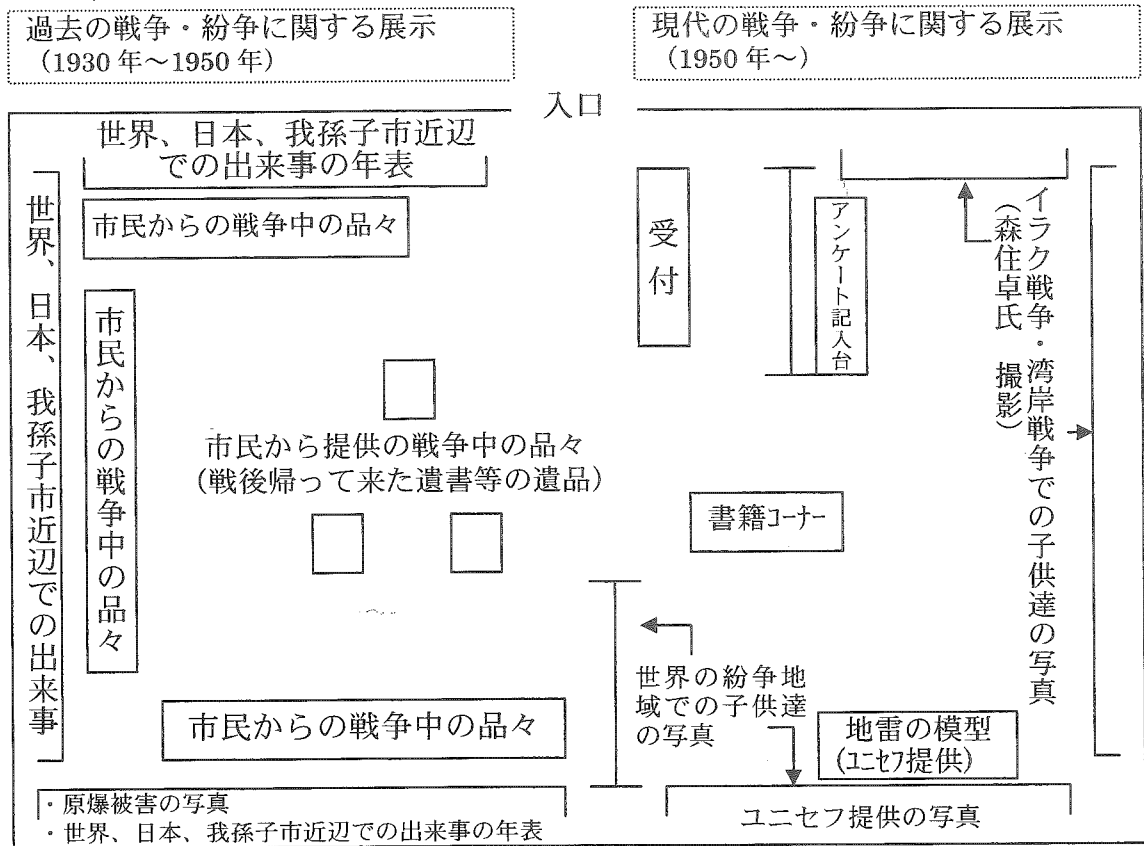
今ある日本での平和な暮らしは、これらの事実と決して無関係で成り立っているものではありません。戦争を知る世代が少なくなっていく中、戦争の事実を明日を担う子どもたちに伝えていくことはますます重要になっています。今回の平和事業が、私たち一人ひとりにとって、戦争を学び、平和を築く大切さを知り、できることから行動していく契機になれば幸いです。

資料の提供にご協力いただきました多くの方々に心から感謝申し上げます。

2005年7月31日

我孫子市長 福嶋浩彦

## 戦争に関する資料展示会場レイアウト



### 資料提供者・協力団体等一覧 (氏名・団体名等 50音順、敬称略)

秋田 彰平  
 浅井 亮慈  
 阿曾 敏夫  
 阿曾 靖子  
 五十嵐 淑郎  
 石川 和美  
 井原 証之助  
 井原 正子  
 今井 岩夫  
 上野 千代  
 海老原 仁市  
 大井 貞治  
 大岡 愛子  
 大岡 四星  
 大塚 ちよ  
 小熊 きく  
 香取 美雄  
 菊池 武子

桑島 昭治  
 小池 敏子  
 小池 美千  
 越岡 礼子  
 早乙女 菊王  
 塩田 憲子  
 篠田 まさ  
 城 千鶴子  
 鈴木 正吾  
 染谷 克  
 高藤 妙子  
 高橋 明男  
 滝沢 正一  
 田中 茂夫  
 田中 良兼  
 谷島 昌司  
 千葉 忠  
 都鳥 あき子

中野 大  
 中村 宏  
 新山 昭輔  
 野口 和男  
 人見 武  
 本間 英夫  
 松永 久子  
 松原 勝  
 松本 成男  
 馬渡 巖  
 村田 源子  
 渡辺 勝義  
 渡辺 芙美子  
 渡辺 康子  
 (株)アルファデザイン  
 昭和史レトロ館  
 東京反核医師の会  
 日中友好協会

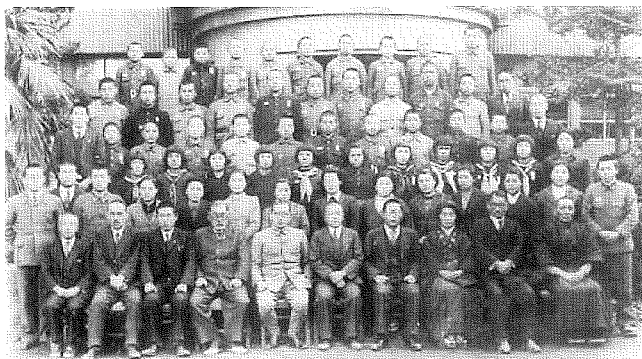
日本新聞博物館  
 (財)日本ユニセフ協会  
 毎日新聞社  
 我孫子第一小学校  
 高野山小学校  
 東京書籍(株)

資料展示にあたり、市民の皆様から沢山の資料を提供していただきながら、会場の都合で一部展示できなくなりましたことを、御詫び申し上げます。





左上：捕虜になった時の携行品目明細表 中上：退去証明書 右上：死亡告知書  
 左下：引揚証明書 右下：平成17年に戻ってきた60年前の通帳



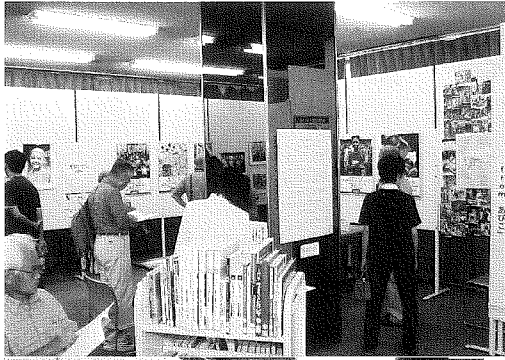
我孫子第一小学校の卒業記念写真（S18年）



出征祝いの日の丸寄せ書き、のぼり旗等

会場風景

戦争に関する書籍



紛争地域の子供達の写真 (ユニセフ提供)

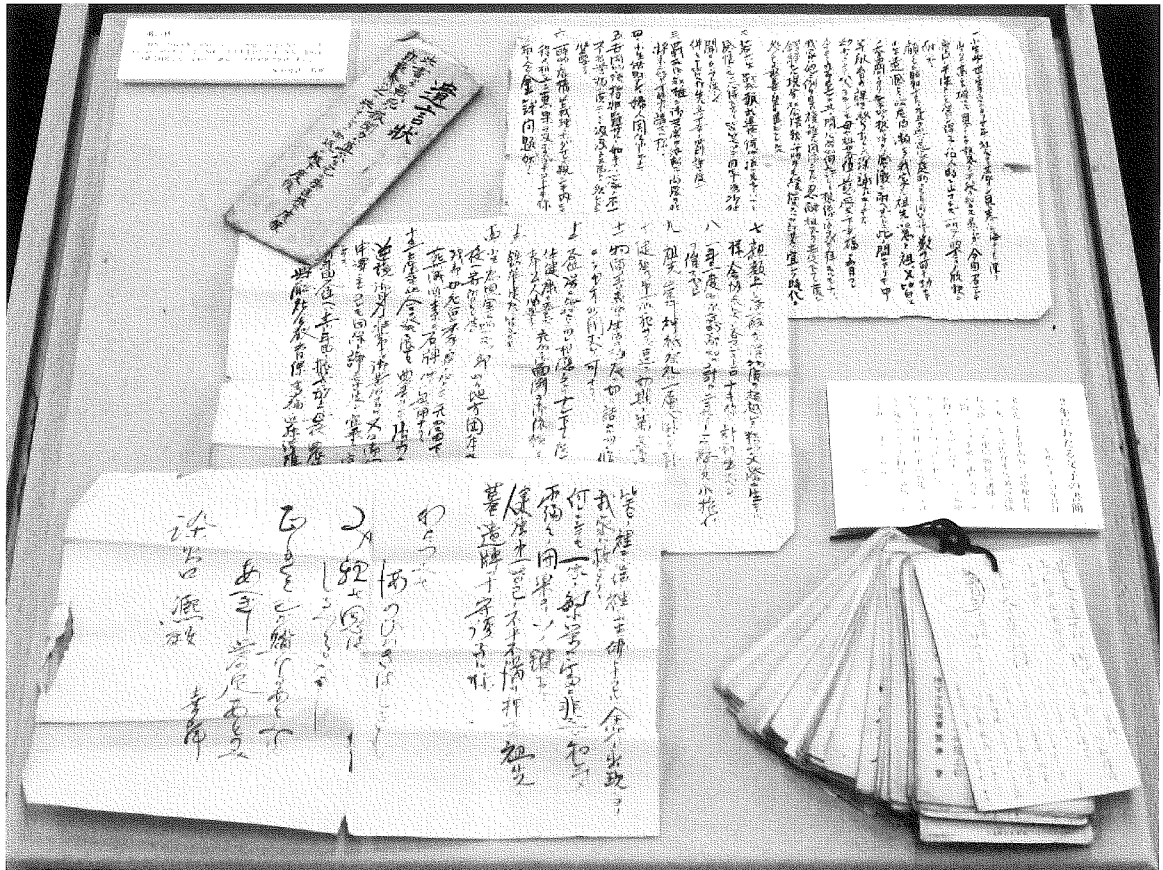


原爆の写真 (東京反核医師の会提供) と年表

イラクの子供達の写真 (森住卓氏撮影)

遺言状

2年に渡る親子の書簡



展示会場資料

戦中、戦後の出来事（一九三〇年～一九五〇年）年表

明朝体：戦争、社会での出来事

ゴシック：我孫子市及び近辺での出来事

- 一九三〇年 九月二一日 我孫子―取手間に大利根橋が竣工
- 一九三一年 九月一八日 関東軍参謀ら、柳上湖の満鉄線路を爆破（満州事変始まる）
- 二月 制服が制定される（カ―キ色）（我孫子尋常高等小学校）
- 一月二八日 上海で日本軍、中国軍と交戦開始（上海事変） 五月五日停戦協定調印
- 一九三二年 三月一日 満州国、建国宣言
- 九月一五日 日満議定書調印（満州国承認）
- 二月七日 貧困欠食児童に対する給食を開始（湖北尋常高等小学校）
- 一九三三年 二月二四日 国際連盟総会、リットン報告を承認（四二対一）
- 日本代表松岡洋右、対日勧告採択に抗議して退場
- 三月二七日 内田外相、国際連盟脱退を通告
- 一九三五年 八月二三日 第一師団防空演習 柏・土・我孫子に監視所設置
- 一九三六年 二月二六日 皇道派青年将校、一四〇〇人余を率いてクーデターを執行
- 斎藤実・高橋是清ら政府要人を殺害し永田町一帯を占拠（二・二六事件）
- 一九三七年 七月七日 盧溝橋で日中両軍衝突（日中戦争始まる） 七月二一日現地協定成立
- しかし政府、華北の治安維持のための派兵決定
- 八月二九日 秋着工予定の常磐線松戸―我孫子間電化、事変勃発により延期決定
- 九月一日 第一五六聯隊に動員下令 一〇月上海で戦死者多数
- 九月 湖北村・布佐町で防空訓練を実施
- 二月二三日 日本軍、南京占領 大虐殺事件を起こす
- 南京陥落旗行列を湖北尋常高等小学校、村団体で挙行
- 一九三八年 二月二一日 各教室に国旗を備え付ける（湖北尋常高等小学校）
- 四月一日 国家総動員法公布
- 四月二七日 成田・常磐線両線に行商専用車が運転を開始
- 五月一八日 湖北村愛国貯金運動開始、湖北村三七、四〇〇円、日秀区二、四〇〇円割当
- 五月一九日 日本軍、徐州を占領
- 五月二〇日 軍人遺家族の相談、指導にあたるため我孫子町銃後相談所が設置される
- 六月二〇日 我孫子町、町報で第七次満州農業移民本隊、第二回満蒙開拓青少年義勇軍を募集
- 六月二一日 出征軍人家族への奉仕活動を行う（湖北尋常高等小学校）
- 六月下旬 梅雨前線と台風により未曾有の豪雨、手賀沼大洪水
- 一〇月二一日 日本軍、広東を占領
- 一〇月二七日 日本軍、武漢三鎮を占領
- 十一月三日 近衛首相、東亜新秩序建設を声明（第二次近衛声明）
- 一九三九年 五月三日 国道六号松戸―我孫子間舗装工事着工
- 七月八日 国民徴用令公布
- 七月 千葉県より「児童の心身鍛錬実施に関する件」が通達され、児童の勤労奉仕、勤労作業が増える
- 九月一日 ドイツ、ポーランドへ進撃開始（第二次世界大戦始まる）
- 一〇月一日 成田・常磐沿線から東京への行商隊が増加 毎日一、三〇〇名内外に達する
- 十一月一日 気象庁中央気象台布佐出張所開設
- 二月二六日 朝鮮総督府、朝鮮人の氏名に関する件公布（日本式に創氏改名を強制）



歴史珍事録

- 一九四〇年 六月一〇日 イタリア、英仏に宣戦布告  
 九月三日 日本軍、北部仏印に進駐  
 九月二七日 日独伊三国軍事同盟調印  
 一〇月一日 第五回国勢調査 我孫子町六、二七七人 湖北村三、五六九人  
 布佐町二、九五五人 富勢村三、五三八人  
 一〇月一七日 紀元二六〇〇年奉祝大運動会行われる(我孫子尋常高等小学校)  
 十一月一日 紀元二六〇〇年記念式典が各地で行われる  
 十二月一日 焼夷弾焼実験を見学(湖北尋常高等小学校)
- 一九四一年 一月下旬 柏・富勢・我孫子・田中の各国防婦人会が柏病院で洗濯奉仕を実施  
 三月 戦死者の遺骨迎え、村葬が行われ、児童参列(湖北地区)  
 四月一日 小学校を国民学校と改称  
 四月一日 国民学校令により湖北尋常高等小学校は「国民学校」と改称される  
 五月一四日 我孫子町柴崎で富勢・我孫子・湖北三ヶ町村軍用保護馬鍛錬会開催  
 五月二二日 青少年団結成式をあげる  
 六月二三日 独軍、ソ連に攻撃開始(独ソ戦開始)  
 七月七日 村民総動員大会開かれ、児童も参加  
 七月二八日 台風により手賀沼氾濫、築留土手ほか決壊、布佐町浸水  
 日本軍、南部仏印進駐  
 九月 柏―我孫子間の電話が直通となる  
 十二月八日 日本軍、マレー上陸、真珠湾奇襲(太平洋戦争始まる)
- 一九四二年 一月二日 日本軍、マニラ占領  
 一月 開戦詔所奉読式、必勝祈願、竹やり訓練を行う(布佐町国民学校)  
 二月一五日 日本軍、シンガポール占領  
 三月八日 日本軍、ラングーン占領  
 四月一八日 我孫子町中央国民学校、全校遠足中に空襲警報が発令  
 湖北国民学校では授業を中止し非難  
 六月五日 ミッドウェイ海戦(日本、四空母を失い戦局の転機となる)  
 一〇月二三日 布佐町青年学校教練査閲に国民学校生徒も参加して翼賛壮年団協議会開催  
 十二月八日 ニューギニア・バザアの日本軍全滅
- 一九四三年 二月一日 日本軍、ガダルカナル島撤退開始  
 三月一五日 満蒙開拓義勇軍出発を全校児童で見送る(湖北村国民学校)  
 三月二四日 金属強制供出が行われる  
 七月四日 成常青果物行商組合が解散 一〇日から東京への野菜行商禁止  
 八月三〇日 児童の血液型の検査が行われる  
 九月八日 イタリア、無条件降伏  
 一〇月二二日 制服を廃し、モンペ着用となる(我孫子町東部国民学校)
- 一九四四年 四月 湖北国民学校に疎開児童が次々に入学、児童数が八〇〇人を超える  
 東京機器相工場、第一期工事が完了し、操業開始 学徒・女子挺身隊を  
 迎える  
 七月七日 サイパン島守備隊三万人全滅  
 七月三一日 布佐町会が学校を中心とした地下壕を設置する  
 八月二三日 学徒勤労令・女子挺身勤労令公布  
 一〇月二四日 レイテ沖海戦(日本、連合艦隊の主力を失う)  
 十一月二三日 東部女教員相互視察研修会の一行、手賀沼渡船中、転覆し、一八名が溺死

展示内容概要

- 一九四五年 二月一日 陸軍部隊が湖北村国民学校に駐屯、授業が二部制となる
- 三月九日 B二九、東京大空襲（三月一〇日）  
江東地区全滅（二三万戸消失、死傷者一二万）
- 四月一日 米軍、沖縄本島に上陸 六月二三日守備隊全滅
- 四月二三日 布施・釜平旅館等八棟被爆、焼失する
- 五月七日 ドイツ軍、連合国に対し無条件降伏
- 六月二七日 校舎を軍隊舎に転用（布佐町国民学校）
- 七月一〇日 朝五時より艦上機来襲（布佐町国民学校）
- 七月二六日 ボツダム宣言発表
- 七月三〇日 終日、艦上機の空襲あり、味方機の飛来なし（布佐町国民学校）
- 八月六日 広島に原爆投下（年末までの死者推定一四万人土一万人）
- 八月八日 ソ連、対日参戦
- 八月九日 長崎に原爆投下（年末までの死者推定七万人土一万人）
- 八月一四日 御前会議、ボツダム宣言受託を最終決定 天皇、戦争終結の詔書を録音
- 八月一五日 天皇、戦争終結の詔書を放送（玉音放送）、第二次世界大戦終わる
- 九月 学校農園での米を分配し、運動会を行う（我孫子町中央国民学校）
- 十一月六日 教科書改変、教科の指導研究会をしばしば行う
- 一九四六年 三月一四日 パラオ引揚者ら、利根遊水池への入植決定  
千葉入植組合を結成（組合員四〇人）
- 五月三日 極東国際軍事裁判開廷
- 十一月六日 日本国憲法公布
- 一九四七年 四月一日 国民学校を第一小学校、湖北小学校、布佐小学校と改称 第二小学校開校  
第一中学校（現我孫子中学校）、湖北中学校、布佐中学校開校 六・三制施行
- 四月 利根遊水池（田中・富勢・我孫子）一、二〇〇町歩干拓のため  
社団法人利根開発協会が設立
- 五月三日 日本国憲法施行
- 八月 我孫子第一小学校PTAが創られる
- 一〇月一日 第六回国勢調査 我孫子町一、二七六八 湖北村五、〇三三九  
布佐町四、二六一八 富勢村五、七四二八
- 一九四八年 二月二五日 東利根開拓農業組合、組合員一、一一五八人で設立
- 八月 米軍配給による給食始まる（我孫子第一小学校）
- 十一月二二日 極東国際軍事裁判所、戦犯二五被告に有罪判決 十二月三日、東条ら七人の絞首刑執行
- 一九四九年 四月一日 柴崎分教場、我孫子町立第三小学校として独立
- 五月、七月 我孫子中学校、布佐中学校新校舎落成
- 一九五〇年 六月二五日 朝鮮戦争始まる
- 十月一日 我孫子第一小学校西部分校（現我孫子市立第四小学校）設置される
- 一九五二年 四月一日 我孫子第一小学校西部分校独立して我孫子町立第四小学校となる
- 一九五四年 九月九日 富勢村会、我孫子町へ一部合併を議決
- 一九五五年 四月二九日 我孫子町・布佐町・湖北村が合併して我孫子町となる

参考資料

- 岩波ブックレット「年表昭和史」
- 我孫子第一小学校100年史
- 我孫子市域小学校変遷表
- 我孫子市統計書「2004統計」
- 戦後50年・企画展図録「戦争・我孫子の証言」
- 我孫子市史近代篇（第8章戦火を生きて）

## アンケートの結果

【小学生：男】僕は戦争でケガをするのは大人だけだと思っていました。でもこれを見たら子どもも大ケガをしているのを見たら子どもも全いん大へんだったということがわかりました。生まれたりかおがおばけみたいなのになっちゃったり、せなかに大やけどになったりみんなかわいそうだなあと思いました。これから一生戦争はやめてほしいと思いました。

【小学生：男】ぼくがいちばんいんしょうに残ったのは、じらいです。じらいがあんな飛んであんなひがいが多いことを始めてしりました。ぼ金とかにせっきよく的になんかして、少しでもイラクとかの人たちをすくいたいと思いました。

【中学生：女】今回戦争に関する色々な資料を見て、とてもショックをうけました。かわいそうな写真や、私には考えられない事が多く、まじまじと見られませんでした。これから、戦争を身近に感じ、もっとよく考えていこうと思いました。

【大学生：女】戦争の悲惨さは、今までたくさん見たり、聞いたりしてきましたが、そのたびに胸が苦しくなり、涙がでそうになります。戦争のない、平和な世界など不可能なのかもしれませんが、私が何かできることがあれば、積極的にそれを行い、少しでも世界が平和になるように力になりたいと感じました。今日この展示を見ることができて、本当によかったと思います。

【20代：女】平和で豊かな毎日の暮らしに慣れて、昔の戦争の事や世界のまずしい国で一生懸命生きている人の事を考えもしない今の私達。こうゆう展示を見ると反省させられる。すべて欲しい物はお金で買ってぜいたくに慣れて、昔の大変な日々を忘れ、あたり前に思っているのが恥ずかしくなった。子供達も病気や飢えで苦しんでいる姿を見ると悲しくなる。一日でも早く世界中の子供達が安心して暮せる世の中になればと心から願う。

【30代：女】夏休みの事でもあるので、小学校高学年の子供二人と共に見させていただきました。子供にはザンコク過ぎて見せたくない様な物もありますが、これが本当に起こった事であり、これから起こってはいけない事である。という気持ちが心に刻まれる良い体験になったと思います。資料展示に関しては、戦時の流れと我孫子での事柄が平行にわかりやすく、貴重な展示物も真近に見られ、大変良かったです。さらに近年の戦争の展示も、子供達も今まさに起こっているものであるため、関心を強く持っていました。ありがとうございました。

【40代：女】私は戦争を知らない世代です。今日初めて戦争に関する資料展を拝見し大変なショックを受けました。世界中にあんなにも沢山の戦争が起きていること、人々の悲しい無言の訴え、子供の叫びが聞こえてきました。世界中からいまわしい戦争が一日も早く無くなることを願うばかりです。日本に生まれたことをつくづく幸せに思いました。

【50代：女】敗戦後60年、どんどん戦争の記憶が風化しつつある中、よい企画がこんな身近にあったことに感謝しています。60年目の今年だけでなく継続して催せたらうれしいなあと思っています。教員をしていましたので3月には戦争展（平和展）、証言者の話を聞く集会等、毎年行っていましたが、学校という単位ではなく、地域として原爆記念の式のように語り継ぐ必要を感じます。歴史教育の中では教えきれないことを子ども達に実物をもって伝えていけることは大切だと思います。世の中がとてもきな臭くなり半数近くの人が戦争になる危機を感じるというアンケートもあり、心が痛みます。戦争とは何かどんなことが身に起きるのかとてもよく伝わる展示内容です。私も出品しようと思っていながら出しそびれてしまい、次に機会があれば

### 第3部 戦争に関する資料展示「戦争を知らない子どもたちへ from あびこ」

ばと思います。私と同じように思う方もこの展示を見て思われるかもしれません。是非継続開催をと思います。すばらしい展示ありがとうございました。

【60代：男】大変参考になりました。小学3年生の時に被爆（長崎）し、その数日前に大量の“バクダン”に見舞われました。写真や資料を見せていただいた時に、その時代を思い出すことが出来ました。原爆は持つことそのものが悪です。今や10,000発の原爆を持つと云う米国及びイギリス、中国、フランス等の国こそ原爆を破棄すべきです。自国のみ平和主義では世界は終わりです。何故、国と国が戦うのでしょうか。個人と個人ならばどの国の人でも親友になれるのに。戦争、紛争、いずれも地球・人類を滅ぼします。一人一人が平和の為の戦いを続けたい、またその為の戦いをしなければならないでしょう。

【70代：女】小学校6年で終戦になり、布佐小でしたが戦争中は食べるものもなく、学校でも竹やり、なぎなた等で何事も協力、集団行動でした。今の様に核家族等考えられない時代でした。今回の展示を見て、二度と戦争はやるべきでない事を子供達に伝えなければと思います。ご近所も知らない協力出来ない、すぐ切れてしまう今の生活はおかしいです。主催者の皆様本当にありがとうございました。